

令和6年度 第2回綾瀬高等学校学校運営協議会【議事録】

日 時:令和6年11月18日(月)15:00~16:30

会 場:会議室

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 協議 (○委員 ●学校側)

(1) 柔軟な学びについて

- 欠席30日を超えそうな生徒、病気療養中の生徒に対する柔軟な学びについて、リーフレットを配布し連絡する。学校へ復帰するための手立てである。県立高等学校で実施している。

(2) 50周年記念事業について

- 令和8年度50周年を迎えるにあたり、しっかりと周年行事を実施したい。生徒にも盛り上げてもらい、学校の活性化を図りたい。来年度より記念誌作成に入る。

○ 地域の協力も得られると思うので、活用していただきたい。

(3) 令和6年度学校目標(中間検証)に係る校内評価報告について

① 教育課程学習指導

- 7月に動画オンライン授業を平常授業として組織的に取り組み、8月の台風時には実際にオンライン授業を実施した。11月に電子黒板が導入され現在、どのような使用方法があるか、職員で検証している。BYODの工事により、環境改善が進むことが期待される。

② 生徒指導・支援

- 1,000人規模の多様な生徒がおり、コーディネーターを軸として、SC、SSWと連携を図り支援している。指導を要する生徒への支援を情報共有しながらより良い指導を実施することができた。県のサポートブックや学校生活アンケート(12月実施予定)により、生徒が気づいていない課題を見つけて面談等につなげたい。日頃の声掛けも行いながら、新しいシステムと現存の支援を併用していきたい。
- 行事が盛んな魅力ある学校にするため支援、努力している。クラスルームを活用しながら、円滑に支援することができた。課題は部活動、働き方改革とのバランスが難しい。手をかければ伸びる生徒が多い。

③ 進路指導・支援

- 模擬試験等でリクルート、ベネッセを活用している。結果のより良い共有方法を模索中である。妥協しないで進路希望を決めてほしい。総合的探究の時間の授業を活用できる入試制度がでてきている。3年生で実施した「綾瀬高校をアピールする」プレゼンでは、生徒の面白い作品が多数出た。

④ 地域等との協働

- 学校運営協議会の内容を全体にもっと共有する必要がある。地域貢献活動は少しずつ増えてきていると感じられる。具体性がある生徒も取り組みやすい。地域(綾瀬市)の多様性を活用し交流できればと思う。

⑤ 学校管理、学校運営

- インクルーシブ教育を生徒、職員双方に意識づけする必要があり、夏に職員研修会を実施し、その後は良い影響がでている。生徒向けの研修は日々の教育活動で意識づけをしたい。
- 夏休み明けに大規模な防災訓練・帰宅班での帰宅訓練を実施した。生徒には予告をしないで実施したが、スムーズに動くことができた。来年度はもっと早い時期に実施したい。

- 働き方改革に関しては今後も少しずつ進め、生徒との時間を増やしていきたい。

(4) 学校関係者評価(中間評価)について

※ 本日予定していた部会を、全体協議をもって行うこととした。

① 教育課程学習指導について

- 電子黒板の活用法はどうなのか。

- クロムブックに接続して画面を移したり、電子黒板に書き込んだりしている。使用方法については、現在、検証中である。

- ICT機器の導入により学校が一番変わる時期だと感じている。電子黒板導入により新しい段階に入ったことを実感している。柔軟な学びに関しては重要であるとともに実施する難しさもあるのではないか。

- 綾瀬高校の学校説明会で授業を見学し、電子黒板の効果的な活用で更に授業内容が充実することを期待する。今の子どもたちは話を聞くだけではなく、視覚的な情報に慣れている。

② 生徒指導・支援

- 子どもサポートドックの内容はどのようなものか。

- 生徒へ一斉にアンケートを実施する。赤ランプ(要ケア)生徒へは担任からプッシュ面談でSC、S SW等との面談を行っている。

- 多様性のある人々との交流で他者とつながることの大切さと面白さを感じる。

- 中学校でも不登校が増加している。神奈川県全体の課題である。子どもサポートドック等のツールを使い、それぞれの実態に対応しなければならない。ヤングケアラーについて、最近、綾瀬市でもヤングケアラーの把握に動く傾向があるが、把握方法の難しさを感じる。

③ 進路指導・支援

- 総合的探究の時間のプレゼンの評価は誰が行うのか。

- クラス内グループごとに発表し、相互評価を行っている。最終的には主催者が評価。評価結果の扱いとしては、生徒たちの今後の活動に生かすために使う。

- 地域との交流で生徒が計画を立てたものは必ず実施するのか。

- 各担任、担当から説明して可能なものは実施する。

- 地域の大納涼祭で生徒に放送を手伝ってもらってありがたかった。もっとPRが必要だった。

- 綾瀬高校をプロデュースしてほしい。企業(NPO法人SoELa)と連携して綾瀬高校をアピールしたことは面白く、地域とのつながりを作れるいい機会であると思う。

- 進路指導は、様々なツールを使い、子どもたちの夢を育ててほしい。

- 総合的探究の時間に関しては、生徒の発信力は高まっているので、その発表方法を工夫する必要がある。

④ 地域等との協働

- 地域の防災訓練に関しては、10月に自治会で安否確認訓練を行った。参加者の70%以上の安全を確認することができた。また、(災害時用の)マンホールトイレを実際に組み立て、使用方法等を確認した。今後どう活かすかを考え、作り方を代々伝えていかねばならない。

- 綾高生が地域に避難してきたときに備え、一緒に助け合える環境を整え、防災に関しては自治会と話し合う機会があればと思う。

- 綾瀬市は市民活動団体も多く、活用できる人材資源が豊富である。その環境を生かして地域協働をもっと盛り上げていきたい。また、小学生や福祉関係の交流連携を実施してみてもどうか。

⑤ 学校管理、学校運営

- 防災避難訓練に関して、保護者へのマニュアルを配布しているのか。

- 入学時の手引での案内のみであり、配布はしていない。現状は生徒カード上の中間ポイントの設定などにとどまっている。
- 保護者にもマニュアルを共有できるようにして欲しい。
- 検討していく。
- 防災に関しては課題が多い。いつでも震災は起こり得るし、中学校でもより良い訓練方法を模索している。中学校では予告なしの訓練を実施予定。繰り返し訓練を実施するしかないのではないか。
- インクルーシブ教育に関しての生徒向け校内研修はどのような内容なのか。また、段階的に行っているのか。
- 大枠を全体に説明し、次の段階で1、2年生に向けてはもう少し踏み込んで説明している。
- 研修での内容を、保護者にも学校から配布してもらえるとありがたい。保護者が安心できる。
- インクルーシブ教育実践校に関しては、中学生の進路の選択肢として充実してほしい。
- 中学校では、部活動の地域移行を模索している。綾瀬市と連携し、市主催の指導者講習会も実施されている。
- 働き方改革に関しては、中学校では研修会を実施した。実際にそこで出た意見を採用し、少しでも改革が進むよう努力している。
- その他として2件ある。留学生が綾瀬高校でお世話になった。選挙に関する学びも必要ではないかと感じている。

4 報告事項

令和6年度地区学びづくりシンポジウムが開催されます。興味のある方はご参加ください。
 次回の第3回学校運営協議会は、令和7年3月12日(水)を予定している。

5 閉会

【配付資料】

「柔軟な学び」に関する資料

創立50周年記念事業関係資料

令和6年度 学校評価報告書(中間報告)

令和6年度地区学びづくりシンポジウムの開催について(案内)

令和6年度学校案内

以上